



平成22年11月期 第2四半期決算短信

平成22年6月30日

上場取引所 東

上場会社名 キューピー株式会社

コード番号 2809 URL <http://www.kewpie.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 鈴木 豊

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営推進部長

(氏名) 井上 伸雄

TEL 03-3486-3331

四半期報告書提出予定日 平成22年7月15日

配当支払開始予定日

平成22年8月9日

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年11月期第2四半期の連結業績 (平成21年12月1日～平成22年5月31日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年11月期第2四半期	230,916	2.2	11,815	56.3	12,147	55.5	6,242	54.0
21年11月期第2四半期	225,953		7,560		7,814		4,053	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年11月期第2四半期	41.15	
21年11月期第2四半期	26.71	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年11月期第2四半期	283,314	177,820	54.2	1,012.61
21年11月期	275,650	170,804	53.8	978.33

(参考) 自己資本 22年11月期第2四半期 153,609百万円 21年11月期 148,412百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年11月期		7.50		9.50	17.00
22年11月期		8.00			
22年11月期 (予想)				8.00	16.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

(参考) 平成21年11月期の1株当たり期末配当金につきましては、創立90周年記念配当2円を含んでおります。

3. 平成22年11月期の連結業績予想 (平成21年12月1日～平成22年11月30日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	472,600	4.5	21,500	21.3	21,800	18.4	10,500	16.2	69.22

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ「定性的情報・財務諸表等 4. その他」をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

会計基準等の改正に伴う変更 無

以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年11月期第2四半期 155,464,515株 21年11月期 155,464,515株

期末自己株式数 22年11月期第2四半期 3,767,588株 21年11月期 3,765,068株

期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年11月期第2四半期 151,697,574株 21年11月期第2四半期 151,734,441株

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想等の将来に関する記述は、業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定および本日現在における入手可能な情報を前提としており、実際の業績等は様々な要因で大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想に関しましては、4ページ「定性的情報・財務諸表等 3. 連結業績予想に関する定性的情報」をご参照下さい。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、欧州財政危機の影響により景気の先行きへの不透明感が強まる中、雇用情勢の厳しさから個人消費が引き続き低迷するなど予断を許さない状況で推移いたしました。

食品業界においては、内食の需要は比較的堅調であったものの、景気低迷の影響を受けて外食や中食での消費が低調であったほか、お客様の購入単価の低下傾向が続きました。

食品物流業界においては、燃料価格の上昇基調での値動きや消費の冷え込みによる荷動きの減少の中、競争激化の傾向が継続しました。

◇ 当社グループ（当社、連結子会社および持分法適用関連会社）の状況

当期からの3年間を対象とする中期経営計画における、「人材育成の充実と、グループ品質の向上」を土台とした「事業基盤の強化」と「新たな展開への挑戦」の3つの基本方針、またこれらを強力に推進するドリルの役割として位置づけた「フードサービス戦略の本格的展開」にグループが連携して取り組むことで、企業価値の一層の向上に努めました。

・売上高

食品事業については景気低迷の影響からフードサービス市場（中食・外食・食品メーカーなど）において伸び悩んだものの、物流事業における連結子会社の増加などにより2,309億16百万円と前年同期比49億63百万円（2.2%）の増収

・利益面

昨年5月に実施したマヨネーズの価格改定の影響を受けたものの、主原料を安定して購入できたほか、各事業での基幹商品の強化への取り組みやグループを挙げたコスト低減の継続などが寄与し、営業利益は118億15百万円と前年同期比42億55百万円（56.3%）、経常利益が121億47百万円と前年同期比43億33百万円（55.5%）、四半期純利益は62億42百万円と前年同期比21億89百万円（54.0%）の増益

◇ セグメント別の状況

<食品事業>

(単位 百万円)

	前第2四半期	当第2四半期	増減(金額)	増減(比率)
売上高	180,299	175,533	△4,766	△2.6%
営業利益	8,816	12,792	3,976	45.1%

調味料・加工食品

- ・フードサービス市場の市況低迷などから加工食品が苦戦
- ・サラダ調味料の物量・シェアが伸長
- ・“新ソース”と位置づけている商品群の展開を推進、中でも新商品の「具のソース」シリーズが好調

健康機能

- ・ヘルスケアのアイテムを精鋭化
- ・ヒアルロン酸が食品（サプリメント）用途や化粧品用途で着実に拡大
- ・ユニバーサルデザインフードの「やさしい献立」シリーズが伸長

タマゴ

- ・製菓、製パン、外食業界向けの「エクセルエッグ」などの拡大により液卵が好調
- ・タマゴ加工品では泡をそのまま冷凍状態に仕上げた「エスプーマベース」などの技術を活かした新商品が好評

サラダ・惣菜

- ・業態転換による商品群の整理やコンビニエンスストア向け売上高の不振が影響
- ・カット野菜、サラダの基幹商品が堅調に拡大

＜物流事業＞

（単位 百万円）

	前第2四半期	当第2四半期	増減（金額）	増減（比率）
売上高	45,654	55,383	9,729	21.3%
営業利益	896	1,452	556	62.1%

- ・連結対象範囲の拡大が売上げ増に寄与
- ・運送機能や倉庫内業務の再構築に向けた合理化改善策を推進

2. 連結財政状態に関する定性的情報

◇ 総資産、負債、純資産の状況

- ・総資産は、2,833億14百万円と前連結会計年度末比76億64百万円増加
主に「現金及び預金」、「受取手形及び売掛金」、「商品及び製品」の増加、「投資有価証券」の減少による
- ・負債は、1,054億93百万円と前連結会計年度末比6億47百万円増加
主に「支払手形及び買掛金」、「短期借入金」、「引当金」の増加、「その他」（未払費用）、「長期借入金」の減少による
- ・純資産は、1,778億20百万円と前連結会計年度末比70億16百万円増加
主に「利益剰余金」、「少数株主持分」の増加による

◇ キャッシュ・フローの状況

- ・現金及び現金同等物の残高は、301億27百万円と前連結会計年度末比22億96百万円増加
各キャッシュ・フローの状況
 - 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益、減価償却費に加え、売上債権および仕入債務の増加、法人税等の支払などにより97億25百万円の収入
 - 投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資のための支出などにより58億92百万円の支出
 - 財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の減少、配当金の支払などにより18億76百万円の支出

3. 連結業績予想に関する定性的情報

中期経営計画の初年度にあたり、「事業基盤の強化」においては、サラダ調味料の拡大、タマゴ商品の競争力向上、ヒアルロン酸の強化を推し進めるとともに、生産配置の適正化やサラダ・惣菜事業の関東エリアの強化に取り組みます。また「新たな展開への挑戦」では、国内においては、新たなソースの打ち出しなどにより市場の深耕を図るほか、海外では、中国へのさらなる浸透、タイのフードサービス市場の開拓やマレーシアへの進出を図るなど東アジアでの拡大を推進してまいります。

通期の業績予想につきましては、現時点では売上高4,726億円、営業利益215億円、経常利益218億円、当期純利益105億円を見込んでおります。平成22年1月12日公表の業績予想から、売上高△104億円、上期における主原料コストの安定効果やグループコストの改革の継続などから営業利益+22億円、経常利益+25億円および当期純利益+8億円を見込むものであります。

4. その他

- （1）期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）
該当事項はありません。
- （2）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
 - ①簡便な会計処理
重要な該当事項はありません。
 - ②四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理
該当事項はありません。
- （3）四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更
該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年5月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	25,289	23,148
受取手形及び売掛金	65,050	61,342
有価証券	5,000	5,000
商品及び製品	10,178	9,529
仕掛品	696	762
原材料及び貯蔵品	4,449	4,097
その他	5,741	4,851
貸倒引当金	△371	△356
流動資産合計	116,034	108,374
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	125,996	123,890
減価償却累計額	△77,274	△75,054
建物及び構築物（純額）	48,722	48,835
機械装置及び運搬具	127,017	125,623
減価償却累計額	△104,820	△102,742
機械装置及び運搬具（純額）	22,197	22,880
土地	40,698	40,463
建設仮勘定	2,585	1,535
その他	10,288	9,527
減価償却累計額	△7,656	△7,218
その他（純額）	2,631	2,309
有形固定資産合計	116,834	116,024
無形固定資産	2,126	2,261
投資その他の資産		
投資有価証券	18,845	19,795
前払年金費用	18,129	18,446
その他	12,016	11,474
貸倒引当金	△673	△726
投資その他の資産合計	48,318	48,989
固定資産合計	167,279	167,276
資産合計	283,314	275,650

（単位：百万円）

	当第2四半期連結会計期間末 （平成22年5月31日）	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 （平成21年11月30日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	38,751	37,023
短期借入金	21,469	11,537
未払法人税等	5,764	5,929
引当金	3,935	1,804
その他	20,062	22,483
流動負債合計	89,983	78,778
固定負債		
社債	500	500
長期借入金	2,198	12,744
引当金	2,621	2,623
その他	10,189	10,200
固定負債合計	15,509	26,068
負債合計	105,493	104,846
純資産の部		
株主資本		
資本金	24,104	24,104
資本剰余金	29,432	29,432
利益剰余金	106,443	101,396
自己株式	△3,846	△3,843
株主資本合計	156,134	151,089
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,119	1,213
繰延ヘッジ損益	△40	△58
為替換算調整勘定	△3,602	△3,831
評価・換算差額等合計	△2,524	△2,676
少数株主持分	24,210	22,391
純資産合計	177,820	170,804
負債純資産合計	283,314	275,650

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年12月1日 至平成21年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年12月1日 至平成22年5月31日)
売上高	225,953	230,916
売上原価	173,105	173,054
売上総利益	52,848	57,862
販売費及び一般管理費	45,287	46,046
営業利益	7,560	11,815
営業外収益		
受取利息	150	104
受取配当金	116	137
持分法による投資利益	75	157
その他	334	389
営業外収益合計	677	789
営業外費用		
支払利息	278	181
為替差損	—	116
その他	145	159
営業外費用合計	423	457
経常利益	7,814	12,147
特別利益		
前期損益修正益	15	3
固定資産売却益	10	21
貸倒引当金戻入額	—	67
補助金収入	20	40
その他	24	6
特別利益合計	70	138
特別損失		
前期損益修正損	74	2
固定資産売却損	9	2
固定資産除却損	294	213
その他	21	21
特別損失合計	399	239
税金等調整前四半期純利益	7,485	12,047
法人税等	2,917	5,061
少数株主利益	515	743
四半期純利益	4,053	6,242

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年12月1日 至平成21年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年12月1日 至平成22年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	7,485	12,047
減価償却費	6,173	6,225
持分法による投資損益(△は益)	△75	△157
投資有価証券評価損益(△は益)	2	12
引当金の増減額(△は減少)	2,719	1,796
前払年金費用の増減額(△は増加)	△955	359
受取利息及び受取配当金	△267	△242
支払利息	278	181
固定資産除売却損益(△は益)	292	194
売上債権の増減額(△は増加)	1,748	△1,449
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,306	△717
仕入債務の増減額(△は減少)	△2,673	1,125
その他	△399	△3,674
小計	15,634	15,702
利息及び配当金の受取額	271	303
利息の支払額	△278	△184
法人税等の支払額	△1,727	△6,096
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,899	9,725
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△5,747	△5,350
無形固定資産の取得による支出	△281	△220
投資有価証券の取得による支出	△2,232	△66
貸付けによる支出	△151	△497
貸付金の回収による収入	429	146
その他	678	96
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,304	△5,892
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	616	367
長期借入金の返済による支出	△973	△669
少数株主からの払込みによる収入	—	182
配当金の支払額	△1,214	△1,441
少数株主への配当金の支払額	△176	△182
自己株式の取得による支出	△5	△2
その他	△28	△130
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,783	△1,876
現金及び現金同等物に係る換算差額	△10	134
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,802	2,091
現金及び現金同等物の期首残高	26,705	27,831
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	100	205
現金及び現金同等物の四半期末残高	31,607	30,127

- (4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年12月1日 至 平成21年5月31日）

	食品事業 (百万円)	物流事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	180,299	45,654	225,953	—	225,953
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	7	10,876	10,883	(10,883)	—
計	180,306	56,531	236,837	(10,883)	225,953
営業利益	8,816	896	9,712	(2,152)	7,560

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、業種別に区分しております。

2. 各区分に属する主要な製品

食品事業・・・調味料・加工食品、健康機能、タマゴ、サラダ・惣菜 等
物流事業・・・運送・倉庫業

3. 追加情報

当社および国内連結子会社の機械装置等の耐用年数については、第1四半期連結会計期間より、法人税法の改正を契機として見直しを行い、改正後の法人税法に基づく耐用年数に変更しております。これにより、営業利益は「食品事業」で279百万円増加し、「物流事業」で5百万円減少しております。

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年12月1日 至 平成22年5月31日）

	食品事業 (百万円)	物流事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	175,533	55,383	230,916	—	230,916
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	6	10,823	10,830	(10,830)	—
計	175,540	66,207	241,747	(10,830)	230,916
営業利益	12,792	1,452	14,245	(2,429)	11,815

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、業種別に区分しております。

2. 各区分に属する主要な製品

食品事業・・・調味料・加工食品、健康機能、タマゴ、サラダ・惣菜 等
物流事業・・・運送・倉庫業

〔所在地別セグメント情報〕

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間の本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報は開示しておりません。

〔海外売上高〕

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間の海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、海外売上高は開示しておりません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

大阪サンエー物流(株)、エム物流(株)、(株)サンファミリー、ワイシステム(株)の4社が第1四半期連結会計期間より連結子会社となったことにより、連結子会社の増加に伴う利益剰余金の増加として、利益剰余金が246百万円増加しております。